

臨床美術の概要

芸術造形研究所

2012・9・27

芸術造形研究所

- **企業理念** 美術が心の健康にとってかけがえのないものであることを社会に伝え、美術を社会に役立てることが私たちの使命です。
- **設立** 1976年4月 社員数 14名
- **事業内容**
 - 1) 資格事業 美術の力で脳と心を元気にする「臨床美術」のメソッドを習得した人材の育成事業
 - 2) 教室事業 年齢や目的に応じた「臨床美術」プログラムを実践する教室運営
 - 3) 画材販売 こどもや高齢者でも安心して使える安全性を追求した画材の提供

臨床美術の原点

競争主義の芸術ではなく、共に生きる芸術を

- 彫刻家・金子健二を中心とした美術家の共同アトリエに併設された「子供造形教室」が始まり。
(1976年～)



臨床美術の歩み

- ・ 1995年に彫刻家 金子健二、脳外科専門医 木村 伸医師、
カウンセラー 関根 一夫氏により、医師、アーティスト、
ファミリーケア・アドバイザーによる認知症治療を考案
- ・ 1996年2月より大宮市医師会市民病院にて5名の患者から
スタート
- ・ 1998年4月 東北福祉大学に「感性福祉研究所」が設立さ
れ、芸術療法班として研究が始まる
- ・ 2000年5月 国立精神神経センター武蔵病院にて1年間の
アートセラピーの実践研究を開始

- ・ 2002年8月 長野県諏訪市04年～08年度地域福祉計画「芸術と福祉のまちづくり」に参画
- ・ 2004年2月内閣府認証特定非営利活動法人「日本臨床美術協会」設立
- ・ 2004年4月 法政大学現代福祉学部にて「芸術療法」講座開始
- ・ 2005年9月～2007年2月 学・民ジョイントプロジェクト事業（埼玉県春日部市立幸松小学校4年生の総合学習で、臨床美術を学ぶ）
- ・ 2008年4月 長野県諏訪市芸術保育事業スタート
千代田区立麴町幼稚園で環境教育として導入
- ・ 2009年11月 臨床美術学会設立
- ・ 2010年12月 芸術保育実証研究開始

臨床美術・3つの組織



日本臨床美術協会



芸術造形研究所



臨床美術学会

研究テーマと効果測定

平成16年度～20年度

- 認知症高齢者に対する継続的臨床美術研究
- こどもの感性教育と臨床美術（高齢者福祉との融合）
- 発達が気になる子どもに対する臨床美術研究
- 臨床美術と人材教育研究
- 予防福祉としての臨床美術研究

平成22年～

- 保育と臨床美術
- うつ病対策に有効か

プログラムの特長

美術はだれかに褒められるために描くのではない

- 自分自身を客観的に見つめる
- 自分の感じたことを語る体験
- 自分の感性を実感できる
- 「自分の感じるままでよい」という自己肯定の経験
- 心の解放を経験し、新しい思考の可能性に気付く
- 人それぞれ全く異なる作品をつくるのを見、その美しさを感じ、人の話を聞く、他者受容の経験

認知症への適用

認知機能への効果

- 美術活動を繰り返すことで対象をよく見る、自分のイメージや感情を形と色で表現するという技術面での進歩が見られる
- 言語コミュニケーションが多くなり、感情面も安定してくる。狭義の知能への直接的効果は望めないが、活動を通じて記憶の一部を取り戻し、作品の中に表現し、創作作業に喜びを感じる事が可能である

- 初期の段階から臨床美術を行うと動作や注意力に関する能力が上がることもある
- それぞれの段階でも精神生活が豊かに送ることができる
- 社会的知性の低下を防ぐことができる

「もの忘れの」の処方箋 より

宇野正威著 日本放送出版会 2003年

臨床美術の広がり

改善を目的とした病院・施設

- 大宮市医師会市民病院(埼玉)
- 国立精神・神経センター武蔵病院(東京)
- 聖路加レジデンス(東京)
- 筑波記念病院(茨城)
- 吉岡リハビリクリニック(東京)
- 総泉病院(千葉)
- 内田病院(群馬)
- 大道中央病院(沖縄)
- 木村クリニック(埼玉)

臨床美術士研修

- 社会福祉法人浴風会(東京)

産学官

- 経済産業省コンソーシアム
芸術造形研究所・東北福祉大・東北大・仙台市

研究機関

- 東北福祉大・感性福祉研究所(総合)
- 脳機能研究所(脳波測定)
- 埼玉県立大学(若年性アルツハイマー)
- 東京芸術大学

予防を目的とした行政

- 宮城県仙台市
- 埼玉県さいたま市
- 千葉県鎌ヶ谷市
- 茨城県土浦市
- 神奈川県厚木市
- 富山県高岡市
- 長野県諏訪市
- 埼玉県蓮田市
- 神奈川県横浜市旭区、中区

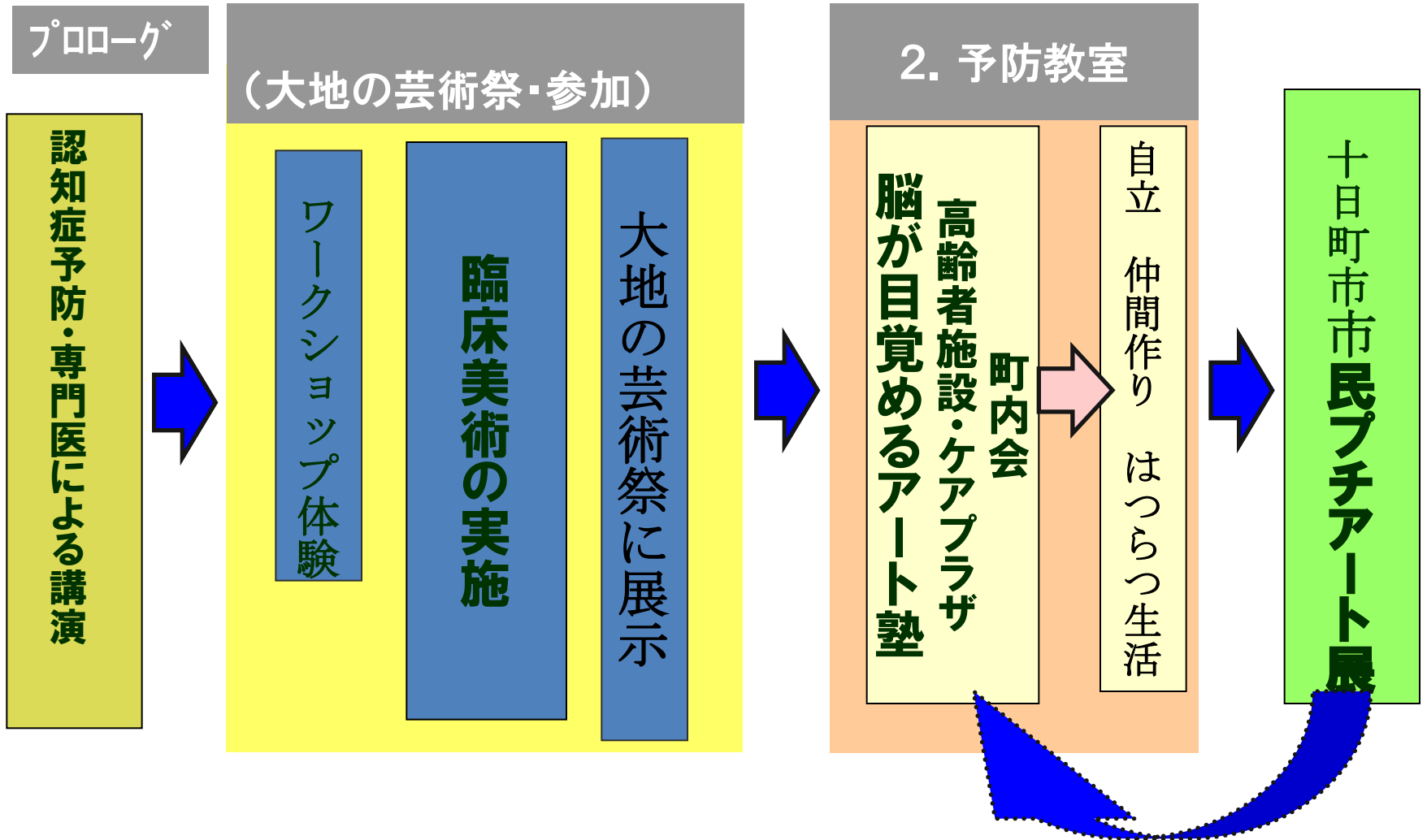
大学での授業(リカレントを含)

- 東北福祉大学
- 法政大学
- 東京学芸大学
- 成安造形大学
- 京都造形芸術大学
- 高岡工科大学
- 筑波大学
- 明治大学
- 東京家政大学
- 女子美術大学

海外に広がる臨床美術

- 2004年、国際アルツハイマー世界大会。「日本発美術療法の世界へ発信」として高い評価を受ける。（京都）
- 2005年、2006年韓国で美術療法を学ぶ大学関係者が臨床美術を学ぶために来日。
- 2006年4月、日韓臨床美術学会開催（ソウル）
- 2007年3月、2008年3月、フィンランド・ラウエア大学にてワークショップ。
- 2008年4月、日中韓臨床美術学会開催（ソウル）
- 2008年6月、フィンランド・ラウエア大学より、臨床美術を視察のため来日。
- 2009年11月 臨床美術学会設立。臨床美術国際学会開催
（東京）
- 2012年5月 EUエンカウンターアート国際学会設立
9月 臨床美術国際学会開催（十日町市）

実施フロー



実施スケジュール

平成24年度スケジュール（2012年5月～2012年8月）

'12 5		6		7			会期中		'10 6		
認知症予防講演会	→	臨床美術体験・作品制作	→	開催 脳がめざめるアート塾 認知症予防講演会	1期	→	作品展示	2期	→	市民プチアート展	
					講師が参加して実施 2回/月 全6回			協会がサポートし、講師のアドバイスの下で実施 2回/月 全8回			

認知症予防
講演会

心竹やぶ
申込書

























越後要所
大地の芸術祭の里































北川
フラム
先生

木戸
修
先生

熊倉
純子
先生

河合
規仁
先生

心理的満足感(3) エピソード記憶を得る機会

- ・ エピソード記憶: 日常体験したことの記憶
情動を伴った体験は記憶しやすい
- ・ アルツハイマー病: エピソード記憶障害が著しい
自分の作品も忘れる
【自宅に作品を展示:
一部を記憶している】
- ・ 失症してからも、
感動の記憶を持ちえること



関係者

基于东方的文

• 重视美术作品带来的想象、意境、韵味，

外在的形象

• 创造过程与欣赏过程均有治疗意义

• 强调感受和共鸣，不过多言语性精神分析

• 治疗本身的吸引力

• 支持性心理空间





Man in white shirt standing on the left side of the stage, possibly a co-presenter or moderator.

Man in white shirt speaking at the podium on the left side of the stage.

Two people seated on the right side of the stage, possibly a panelist and a moderator, engaged in conversation.

A large group of people seated in the foreground, facing the stage, representing the audience attending the presentation.



ありがとうございました。

